

終活支援事業

『葬儀まるごと早わかり』

講座に出席して



H29年2月18日 毘沙門台集会所に於いて、上記の講演がありました。葬儀の話だから暗い気分が多少なりともあったのですが、2時間の講演が終わるとなぜか、爽やかな気分になったのでした。講演者である玉屋社長の手記から 「死から学ぶこと」 について

「第二の人生 余生はのんびり・・・ 余った人生などあるはずがない、死ぬまでが人生の終業、今日できることは今日のうちにする、今この瞬間のことさえ誰にも分らないのだから・・・。

家族葬といってもいろいろな形がある。家族葬 直葬のような葬儀形態が増えているのは、地域住民の連帯意識の希薄化、高齢化に伴う参列者の減少などさまざまな要因によるのだろう。この現象が、現在の高齢化社会における秩序なのか、完成型の終章なのか分からない・・・。」(葬祭業協同組合専務理事・玉屋社長)

いい葬儀業者の見分け方

- 1、電話で葬儀費用の問い合わせをしても、具体的な金額を教えてもらえない業者は避けたほうが良いでしょう。
- 2、指定業者、組合加盟などの業者であれば安心です。
- 3、口コミで評判が良いことが第一条件です。
- 4、ご遺族の話をよく聞いて頂けるかも大切です。

上記の4項目を詳しく事例を取り入れてわかりやすく説明されました。

玉屋社長の 「人生の卒業証書」 の手記から

・・・「終活ノート」多岐にわたり記入できるノートが普及しつつある。しかし葬祭業者である私は、遺族から終活ノートを掲示されて、このような葬儀にしてほしいなどと言われた経験はほとんどない。なぜだろう。事情はいろいろあると思うが、自分の死はまだ先だと思っている人が多いのではないか。・・・自分が書きたい項目だけでも気軽に記して、終活ノートの存在を家族に知らせておくとよい。ある医師が死亡診断書を「人生の卒業証書」と言って遺族に渡していると聞いた。人生を全うされた証明書 という意味のようだ。はっきりと死を宣告されるとつらい思いをすることもある。「人生の卒業証書」なら、受け取る家族も心が和むと思われる。・・・

(葬祭業協同組合専務理事・玉屋社長)

篠田桃紅 水墨の抽象画＝墨象 大正2年生まれ「103歳になってわかったこと」の 著書に

あまり長生きはしたくないと言う人がいる。それは偽り、みんなやはり長生きはしたい！

誰だって死にたくはないはず、生き物には存在本能が備わっている。長生きしたいと思うのが生き物としての本能です。いつ死んでもいいという人は言うだけで人生のやるべきことは全てやったと自分を思いたいのです。そう思うと自分が楽になります。・・・

死について いろいろと考える年になり、身辺整理のできていないにも関わらず、一日一日が過ぎていく自分がいます。人生最期の葬儀 終活ノートの活用 残された家族に負担が軽くなるようにしておかなければと痛感しています。(掲載：2丁目 赤川)